

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0491400016
法人名	社会福祉法人 矢本愛育会
事業所名	グループホーム あさぎり
所在地 (電話番号)	宮城県東松島市赤井字川前四311番地1 (電話) 0225-83-4007

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 11月 27日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人	

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83.7歳	最低	72歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人育成会 赤坂病院 矢本歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本ホームは、社会福祉法人矢本愛育会が2年前に開設した認知症高齢者9名と知的障がい者5名の共同生活施設である。家庭的な雰囲気の中で共同生活を送りながら仲間や職員との連帯感を持ち、一人ひとりが役割を担い自主的に、情緒的に安らいだ日常生活継続の支援を運営理念としている。管理者は、介護老人福祉施設、障がい者施設での勤務経験から、入居者の尊厳を守る個別ケアを重視し、自立心を引き出せる工夫、見守ること、待つ事、そして、プライバシーの確保を大事にしながら、日々喜びを持ち、楽しく過ごせるケアに職員と共に取り組んでいる。家族会主催の花見会等の交流、町内会の協力を得ての高齢者交流や小学校、保育所との交流、防災面での消防署、消防団員の協力等地域の一員となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題である、「地域密着型サービスとしての理念」の見直しは、本年9月全職員が参加したプレンストーン(集団自由討論)による会議で、地域密着型サービスとしての使命を盛り込んだ事業所独自の新たな理念を作りあげている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全て職員に対し、管理者が昼休み等を活用して、延べ20時間ほどの時間をかけてヒアリングしながら作成し、職員会議で意見交換を行ないまとめあげており、ホーム運営を振りかえる良い機会となったとしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、市地域包括支援センター所長、市福祉事務所長寿支援課職員、地域区長、地域民生委員を構成メンバーに、2ヶ月の周期で開催している。報道を通じて話題になる介護事故へのホームでの対応策など双方向の意見交換が行なわれている。また、地域の情報や行事案内も得られている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が設置され、家族会主催の花見会、敬老会や窓拭き等の奉仕活動などが活発に行われており、その機会に意見、要望をうかがっている。また、家族の来訪が多く、その都度声掛けし、入居者の暮らしの様子や健康状態を伝え、家族の意見、要望をうかがっている。相談苦情窓口としてホームに窓口を置き、行政窓口、国保連窓口と合わせ、2名の第三者委員の窓口を重要事項説明書に明記している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地区長が運営推進会議メンバーで、地域が協力的であり、地域行事の花見会や月1回近くの公民館で開催される「脳活性化教室」に入居者と共に参加している。整体師の方やフラワーアレンジメントの方がボランティアとして訪れてきている。又餅つき大会や節分豆まき等で保育園、小学校との交流も積極的である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年9月、全職員が参加したブレンストーミング(集団自由討論)による会議で、心に響くものでありたいとの願いを持って話し合い、次のホーム独自の理念を作り上げた。「みんながほっとできるホームとする、あさぎりの理念として『喜びと笑顔のためにできること～だれもが地域と共に生きる～』」		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が参加して新たに作り上げた理念をパンフレットに掲載し、来訪者、職員等が集まる場所に見易いように掲示している。更に、業務日誌の下部に目に止まるよう表記しており、理念の共有化と実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地区長が運営推進会議メンバーで、地域が協力的であり、地域行事の花見会や月1回、近くの公民館で開催される「脳活性化教室」に入居者と共に参加している。整体師の方やフラワーアレンジメントの方がボランティアとして訪れてきている。又餅つき大会や節分豆まき等で、保育園、小学校との交流も積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回自己評価は、全ての職員に対し、管理者が昼休み等を活用して、延べ20時間ほどの時間をかけて聞き取りを行い作成し、職員会議での意見交換を行ない、まとめあげている。管理者は、ホーム運営を振りかえる良い機会となったとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、市地域包括支援センター所長、市福祉事務所、長寿支援課職員、地域区長、地域民生委員を構成メンバーに、2ヶ月の周期で開催している。報道を通じて話題になる介護事故へのホームでの対応策など、双方向の意見交換が行われている。また、地域の情報や行事案内も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状、特に行き来する機会は少ないとしているが、運営推進会議に市職員が参加しており、連携は図られている。市から、市内グループホーム間での連絡協議会設置の話があったが、そこで止まっており、市との連携による協議会の設置を今後の課題としている。	○	入居者の住みなれた地域での生活継続を支え、地域の特性に応じたサービスの質の向上には、同じ地域のグループホーム間での情報交換も必要と思われる。市の担当者への働きかけを強め、取りまとめの労を取って頂きながら、市内グループホーム連絡協議会の設置を進めていく事を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪が多く、その都度声掛けし、入居者の暮らしの様子や健康状態を伝え、あわせて、家族の意見、要望等をうかがっている。毎月、入居者の生活、健康・通院の様子を「生活報告書」として作成し、金銭預かり帳、請求書と共に家族に送付しており、感謝されていることが家族アンケートからうかがえる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設置されており、家族会主催の花見会、敬老会や窓拭き等の奉仕活動などが活発に行われており、このような場や家族来訪時に意見、要望をうかがっている。重要事項説明書に相談苦情対応としてホーム窓口、行政窓口、国保連窓口と合わせ、2名の第三者委員の窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間で、退職、法人内異動で2名の異動があったが、異動前の本人、家族への説明、新担当職員と異動職員との重複期間を1週間程度つくり、馴染みの関係作りを図っている。又、入居者の状況を見ながらの話しかけ、一緒に過ごす時間を多くする等の対応の工夫も行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の接遇、感染症対策等の法人内研修、NPO県グループホーム協議会主催の介護スキルアップ研修会や実践者研修へ、経験年数に応じたの職員派遣を勤務扱いで行なっている。研修結果は、月1回開催する職員会議で報告し、共有化を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、中央ブロックでの交流を行なっている。グループホーム勤務が初めての職員が多い事等から、外部評価No.6に記載のように市内同業者との交流を進めていきたいとしているので、期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前の実態調査には、管理者、計画作成担当者が本人、家族との話し合いを行ない、ホームも見学して頂いている。更に馴染めるようにするには、主にどのようなケアを行なって支えていけば良いのかを、家族と相談しながら把握するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、普通の暮らしの中で、一人ひとりが自分の持てる力で、調理、食器片付け・洗い、洗濯物干し等や魚のさばき方等の知らないことを教えて頂いたりすることに感謝している。チームとして連携し合いながら、無理な介入をしないよう、見守りを主体に、入居者、職員間での支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との面談状況を「面談記録」に残し、職員間での共有化を図っている。入居者とは居室に居る時や入浴時などの一対一の機会等を活用し、会話や表情等から思いや意向の把握に努め、申し送りノートに記録して共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は計画作成担当者が本人や家族からの意見、要望並びに担当職員からの意見を聞き取り、アセスメント記録等も参考にし、原案を作成、家族と全ての職員が参加する会議での意見を取り入れて作成している。会議には、同じ法人のグループホーム統括責任者も参加し、その意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族からの意向把握及び介護記録等や日々のケアで見られる気付き等から意見を出し合い、定期的には3ヵ月毎に見直しを行なっている。本人や家族の要望、退院時や変化が見られた場合には、その都度見直しを行ない、本人、家族に説明し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望、状況に応じての通院、自宅訪問等の外出等の必要な支援には柔軟に対応し、一人ひとりの満足度を高めるよう努めている。今後、近隣高齢者の方のショートステイやデイの利用も検討していきたいとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の本人、家族の希望を重視し、希望するかかりつけ医への受診が行なえるよう支援している。受診状況は「通院記録」で職員間で共有化し、家族の方へ電話連絡を行なっている。法人理事長が精神科医師であり、相談や入居者の受診・治療を受ける環境にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期対応について、本人、家族からのアンケート調査や折りある毎の話し合いを行うようにしており、ホームでの看取り希望も出されている。希望に添えるよう、対応が可能な限りのケアを行うという方針を職員は共有している。法人内に介護老人福祉施設もあり、ホーム自体での看取りへの体制作り等は今後の課題としている。	○	可能な限りのケアを行っていききたいというホームの熱意を評価したい。本人、家族からホームでの看取りの希望もあることから、看取りに関する、本人・家族、かかりつけ医、ホーム等の関係者間での話し合い、方針の統一し成文化するなど、ホームの体制作りの準備を具体的に進めていくことをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の職員会議や日々のミーティングで入居者の尊厳を損なわないケアを行うよう話し合い、お互いに確認、注意しあっている。また、入浴時や居室内では、可能な限り、同性介護が行えるよう努めている。個人記録は人前に放置せず、見えない書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れがあり、誘いかけはするが、一人ひとりの希望や体調を最優先に考え、ホームの理念である、「喜びと笑顔」で本人なりの暮らしのペースで、その日その日が過ごせるよう、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛り付け、配膳、洗い物など入居者と職員が協力しながら行っている。入居者と職員が一緒にテーブルで会話を楽しみ、さりげない介助をしながら、食事を楽しんでいた。食の細かい入居者にはカロリーの高い食事やミキサーによるさざみ食等の代替食提供を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間、順番等を職員が調整することはあるが、入居者の希望にあわせ毎日の入浴や希望する入居者には夜間も可能としている。ホームへの入居前から入浴をいやがる方には、タイミングを見計らったり、職員を代えての声かけ等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者一人ひとりが持てる力を発揮して貰えるよう、働きかけを大切にしながら、支援しており、入居者のホームでの役割、楽しみごとが増えてきているのが嬉しいと話している。入居者の希望を伺いながら、年数回の花見、紅葉見物、食事会等の車による遠出を行い、入居者、職員が共に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望をうかがいながら、近所の馴染みの漬物店、商店での買い物支援を行っている。食堂から直接出られるウッドデッキやホーム敷地内を歩ける散歩道、菜園が整備されており、気軽に戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に施錠することはなく、見守りで対応している。入居者が外出しそうなときは制止せず、一緒に出かけるなどで対応している。車が往来する道路側に入居者、職員馴染みの漬物店があり、見守り支援を頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回(6月：夜間想定避難訓練を含む総合防災、8月：夜間時避難、11月：夜間想定避難、3月：普通避難)の訓練を含む消防計画を立て、消防署に依頼しての避難訓練を見て貰い、意見を頂いている。地域消防団員の方に非常通報網に登録して頂き、災害発生時見回りも可能としている。非常用食糧、水を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎の食事量及び水分摂取量を8日間単位で、血圧等の健康状態記録、排泄記録と共に1枚のシートで把握している。法人内介護老人福祉施設の管理栄養士が作成した献立を参考とし、補食なども入居者の体重変化に注意を払いながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の広場が広く、菜園、花壇もあり戸外に気軽に出て行け、寛げる環境である。居間兼食堂には、神棚、大型の手作り日めくりカレンダー、長寿の心得のすだれ、壁掛けが飾られ、季節と時期が感じられ、自宅と同じような雰囲気となるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが家族の協力により、使い慣れた戸棚、机等の家具や好みの小物を持ち込んでおり、壁には家族や誕生日の写真や思い出の品が飾られ、それぞれ自宅居間と同じような居心地のよい、安心できる環境となるよう、配慮している。		